

I 「豊かな心」の育成

1 道德の時間の充実

(1) 今年度の課題

- ア 道德の時間における発問の工夫と授業づくりに向けた研修の充実を図る。
- イ 道德教育用資料「熊本の心」と「私たちの道德」の有効活用を図る。

(2) 課題解決に向けた具体的取組

- ア 道德の時間の特質をおさえ、ねらいに的確に迫るための発問の工夫を図る。また、研究授業及び授業研究会を確実に実施し、校内研修の充実を図る。
- イ 道德教育用資料「熊本の心」や「私たちの道德」を道德の時間をはじめ、学校・家庭・地域において有効な活用を図る。

(3) 取組の実際

ア 道德の時間の授業づくりについて

下の表１は、１２月に実施した「Ｈ２７教育指導の反省」において、道德教育の推進体制及び研修に関する結果をまとめたものである。すべての小・中学校で道德教育の校内研修が実施され、校長が道德教育の方針を全教師に明確に示している。道德の時間の研究授業を１２月までに実施した学校は、小学校６７．６％、中学校９１．３％であった。また、道德の時間の授業研究会を実施した学校は、小学校７８．４％、中学校９１．３％であった。道德の時間の研究授業及び授業研究会においては、道德の授業づくりの視点からも年度当初の早い時期に実施していただきたい。

表１＜校内推進体制及び研修について＞

具体的項目	小学校（３７校）		中学校（２１校）	
	学校数	割合（％）	学校数	割合（％）
校長が道德教育の方針を全教師に明示	３７	１００	２３	１００
道德教育に関する校内研修の実施	３７	１００	２３	１００
道德の時間の研究授業を１２月までに実施	２５	６７．６	２１	９１．３
道德の時間の授業研究会を１２月までに実施	２９	７８．４	２１	９１．３
全体計画別葉の見直しを１２月までに実施	３５	９４．６	２１	９１．３

本年度の道德教育授業実践研修会は、１０月に天草市立久玉小学校と天草市立牛深東中学校で実施した。小・中学校それぞれで研究授業及び授業研究会を実施し、道德の時間における道德的価値の自覚を深めるための授業づくりについて研修を深めることができた。

久玉小学校では、４年生で「ふるさとのたから清和文楽」（熊本の心）を使用し、内容項目４－（５）「郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心をもつ」をねらいとした授業を実践された。

本授業では、「郷土の伝統文化として清和文楽を受け継ぎ、守ってきた人々の姿」から自己を見つめ、道德的実践力を主体的に身につけようとする児童の真剣な姿が見られた。また、担任をＴ１、副担任をＴ２とし、Ｔ２の役割の中に児童の考

えを深めるための補助発問を意図的に組み込むなど、役割分担の工夫が見られた。授業の中で役割分担を明確にすることで児童の内面を揺さぶる授業を見せていただいた。ねらいに強くかかわる中心発問とその前後の発問時に補助発問が行われた。

また、G Tの活用では、児童の身近なところで活動されている地域の方をお呼びし、インタビュー形式で行われ、ねらいからG Tの話がずれないように工夫されていた。また、「自己を見つめる」時間の前にG Tの話を設定している為、自分たちの生活を振り返ることが容易にできていた。

「熊本の心」の資料活用の工夫においては、時代背景の違いや難語句も含まれることが多いため、各学校で工夫した授業づくりに取り組んでいただきたい。

牛深東中学校では、2年生で「二通の手紙」（私たちの道徳）を使用し、内容項目4－（１）「法や決まりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める」をねらいとした授業を実践された。

本授業では、「動物園に勤める元さんが、園の規則を知っていながら幼い姉弟の思いに同情し、閉園後の入園を許可してしまうことで懲戒処分を受ける」ことから生徒の心の葛藤を引き起こし、社会における法や決まりの意義について深く考えることができた。

ねらいに強くかかわる中心発問では、「懲戒処分を受けたにも関わらず、晴れ晴れとした様子で仕事を辞めていく元さんはどのようなことを考えていたのだろう」と主人公の生き方に共感させるものであった。この中心発問及びそれを生かすための前後の発問から、本時の道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深めることができた。終末では、生活の場面の出来事を振り返らせ、ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えを温めて授業が終了した。

中心発問や前後の発問・指示等を設定していく際には、授業のねらいに強くかかわる中心発問を考え、次にそれを生かすためにその前後の発問を設定するなど、全体を一体的にとらえるようにすることが大切である。価値理解につながる発問においては、「人間理解」（※表１）への発問を含むことで、さらに道徳的価値の自覚が深まる授業展開につながると考えられる。



＜久玉小の研究授業の様子＞



＜牛深東中の研究授業の様子＞

＜表 1 道徳的価値を深める 4 つの視点～天草発誰でもできる道徳の授業入門書から＞

人間理解	人間には、善か悪か、正しいか正しくないかだけでなく、快や苦、利や得によって行動を惹き起こされることがある。このように快を求め苦を避ける傾向利を求め損を避ける傾向にあること、人間のもつ弱さ・醜さや気高さ・強さがあることなどについて理解を深めること。
価値理解	道徳的価値が喜びをもたらす面や納得できる自分をつくる（誇り）面から道徳的価値について理解し、その本質に迫ること。
自己理解	道徳的価値とのかかわりで自己を見つめ、自分自身をとらえること。
自己発見 希 望	道徳的価値に照らして、自分のよさを見出し、道徳的価値を自分なりに発展（価値実現にむけて夢や希望をもつ）させること。

イ 道徳教育用郷土資料「熊本の心」の活用について

「熊本の心」は、熊本の郷土の先人の伝記や逸話などから人間の生き方や考え方に共感を持って学びとることができ、また同時に子どもたちの郷土に対する愛着を深めることができる優れた道徳用郷土資料である。「熊本の心」については、道徳の時間をはじめ教育活動全体でより一層活用していただくよう、全体計画（別葉を含む）や年間指導計画への位置付けをお願いしているところである。

表 2 は、12 月に実施した「H27 教育指導の反省」等をもとに、「熊本の心」の活用についてまとめたものである。

「熊本の心」を取り扱った道徳の時間の公開は、年度内にすべての小・中学校で実施されているが、12 月までに実施した学校は、小学校 86.5%、中学校 66.7%であった。また、「熊本の心」を取り扱った道徳の時間の保護者や地域への公開については、学級の実態に合わせ可能な限りすべての学級で実施していただきたい。



＜久玉小学校の熊本の心の掲示物＞

表 2 ＜「熊本の心」の活用状況について＞

具体的項目	小学校(37校)		中学校(21校)	
	学校数	割合(%)	学校数	割合(%)
「熊本の心」の年間計画への位置付け	37	100	21	100
「熊本の心」を取り扱った道徳の時間を12月までに保護者や地域に公開	32	86.5	14	66.7
〃 (全学級で実施)	22	59.5	11	52.4
〃 (一部の学級で実施)	15	40.5	10	47.6
「熊本の心」を扱った道徳の時間の研究授業を12月までに実施	29	78.4	10	47.6

ウ 道徳用教材「私たちの道徳」について

「私たちの道徳」は、児童生徒が道徳的価値について自ら考え、実際に行動できるようになることをねらいとして作成された道徳用教材である。そのため、道徳の時間をはじめ、学校・家庭・地域においても有効な活用をお願いしたい。

表３は、１２月に実施した「Ｈ２７教育指導の反省」等をもとに、「私たちの道徳」の活用状況についてまとめたものである。

「私たちの道徳」は、すべての小・中学校において、年間計画に確実に位置付けられている。今後は、計画に沿った確実な活用と同時に、学校に備えおらず、児童生徒一人一人に配付し、家庭に持ち帰らせるよう指導の徹底をお願いしたい。

また、研修会や学校訪問等の研究授業において、「私たちの道徳」を使用した授業が増えてきており、道徳の時間の資料としての活用についても期待したい。

＜表３ 道徳用教材「私たちの道徳」の活用状況について＞

具体的項目	小学校（３７校）		中学校（２１校）	
	学校数	割合（％）	学校数	割合（％）
「私たちの道徳」の年間計画への位置付け	３７	１００	２１	１００
「私たちの道徳」の道徳の時間以外で１２月までに活用した	３４	９１．９	１４	６６．７
「私たちの道徳」を家庭に持ち帰る等の活用を１２月までに行った	３５	９４．６	２０	９５．２

（４）成果と課題

ア 成果

「熊本の心」及び「私たちの道徳」を使用した道徳の時間の授業づくりが各学校で進められている。

イ 課題

道徳の時間における中心発問及びそれを生かすための前後の発問の工夫を図り、道徳の時間の特質を押さえた授業づくりの充実を図る必要がある。

（５）次年度へ向けた重点課題

- 道徳の時間の研究授業及び授業研究会を年度当初に実施し、道徳の時間の授業づくりについて共通理解を図る。
- 「熊本の心」を取り扱った研究授業の充実を図る。

＜参考資料＞

- ・ 学習指導要領解説道徳編（小学校、中学校）（文部科学省）
- ・ 天草発だれでもできる道徳の授業入門書
（天草郡市教育委員会連絡協議会）平成２２年３月
- ・ 道徳教育用郷土資料「熊本の心」（熊本県教育委員会）平成２４年３月
- ・ 研究推進校活用事例集（熊本県教育委員会）平成２５年３月
- ・ 私たちの道徳（文部科学省）